

尼崎市立若葉小学校 平成２１年度 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員３名
育友会長・副会長
学校：校長、教頭
開催：平成２２年３月６日（土）
午後６時～８時
若葉小学校 校長室

１ 教育目標・めざす子ども像 わ：若い芽を伸ばす子（強い体） か：考えを深め合う子（強い頭脳） ば：場を美しく、心豊かな子（強い心）

２ めざす学校像 ・わくわく心がはずむ楽しい学校 ・学習の基礎・基本をしっかりと学習できる学校 ・地域の人々に親しまれる学校

３ めざす教師像 ・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師 ・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師 ・家庭と地域に信頼される教師

４ 本年度の重点取組 (1) 学力の向上 (2) 豊かな人間性の向上 (3) 体力の向上 (4) 安全・安心な環境づくり (5) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校

５ 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

自己評価の基準	４：十分達成できた	３：達成できた	２：取り組んでいるが、成果が十分でない	１：取組が不十分である
関係者評価の基準	４：よく取り組んでおり、成果が大きい	３：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	２：取り組んでいるが成果が十分ではない	１：取組が不十分である

(1) 学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
教職員の協働体制の確立	・今年度は、低・高学年部の２つに分け、生徒指導や研究研修体制を組んだ。 ・研究推進委員会で、家庭学習についてのプリントを各家庭へ配布した。 ・専科も含め、１人１授業以上を公開し、指導力の向上を図った。 ・小規模校の特性を生かし、特別な支援の必要な児童を全教職員が理解し、毎月の特別支援教育推進委員会で情報交換を行い、対応している。	・１人１回以上の研究授業を実施し、指導力の向上を図ることができた。 ・学年団が、(苦肉の策であるが) 昨年度の２人から３人になったので、話し合いの幅が広がった。 ・宿題を含め、家庭学習が定着していない。 ・小規模校で職員数が少なく、各教員の校務分掌の負担が大きい。 ・単学級で経験の浅い教員が多い中、教員の指導力の向上に限界がある。	３．０	・朝の学習タイム、計算タイムを継続し、習慣化させる。 ・非常勤講師、ボランティアなどの人的配置に努める。 ・宿題忘れなどは、翌日必ずさせる。教師があきらめないで指導する。 ・放課後に学習する場所と人員を確保し、放課後学習を再開する。 ・朝学習での読書活動の充実を図ると共に、音読を取り入れる。	・小規模校であるとか職員が少ないとかをいい訳にはできないが、現状の職員の中でよく努力している。 ・宿題等家庭学習を定着させるように指導してほしい。 ・放課後学習について、そのようなお金のかかることができるのか。(来年度のクリエイティブ事業で予算を取ってあることを説明) １週間に１日、１時間でどれだけの効果が期待できるか、疑問だ。 ・単学級だからこそ、指導力のある教員を配置するよう、校長は市教委に強く働きかけてほしい。 (関係者評価：３．０)
家庭学習の習慣化					
教員の指導力の向上					
ひとりひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進					

(2) 心の安定を図るとともに、良好な人間関係づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性の涵養	・教師自らが規範となるように意識し、各教科や学校行事との連携を図りながら、道徳性を養う。 ・男女を問わず「さん」付けで呼び、人権感覚を育み、学校生活のあらゆる場面でのコミュニケーション能力の向上を図り、よりよい学級集団づくりに努める。 ・児童の内面理解に努め、担任１人ではなくチームで児童支援を行う。	・今年度は長欠者が１人もいない。 ・朝の校門指導の成果か、進んであいさつをする児童が多くなった。 ・生徒指導部会や特別支援教育推進委員会などでの話し合いが、全体へ浸透していないことがある。 ・男女を問わず、「さん」付けで呼ぶことが定着していない。 ・多忙で余裕が無く、児童と一緒に遊ぶ教員が少ない。	２．８	・引き続き、児童の内面理解に努めることが大切。→日記など。 ・教師自らが率先して、「さん」付けで呼ぶ。 ・保護者が相談しやすい雰囲気、体制をつくる。 ・トラブルは担任１人だけで抱え込まない。学年団や管理職と相談しながら対応する。 ・今後も、児童の欠席状態や欠席理由の把握に努め、長引かないよう早期対応に心がける。	・朝の校門指導は、評価できる。教員が明るい声であいさつをすると、子どもの心が安定してよい。 ・道徳性に力を注いでいることがよくわかる。これからも、力を入れて指導してほしい。 ・長欠者が一人もいないということは良いことである。 ・なぜ、子どもをすべて「さん」付けにする必要があるのかよく分からない。また、その効果は、疑問である。教師との信頼関係ができていれば、名前の呼び捨てでも特に気にならない。 (関係者評価：３．０)
よりよい人間関係の構築					
相談体制の充実					
長期欠席者ひとりひとりの実態に応じた指導の充実					

(3)健康の増進と体力の向上を図る

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
望ましい生活習慣の育成	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動の啓発に努める。 ・食育の全体計画、指導計画の作成。 ・家庭と協力して、児童自らの体や健康について、関心を持たせ、健康の増進や体力向上を図る。	・朝ご飯を食べてくる児童の割合が多い。 ・給食の残食が少ない。 ・教室内の清掃、整理整頓、換気等が不十分。 ・決まった遅刻者はいなくなったが、忘れ物をする児童はまだ多い。	2. 8	・引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」運動の啓発に努める。 ・保護者の協力を得て、食育の推進に努める。 ・2 5分休みの外遊びの奨励、梅雨時の遊び場の確保と遊びの工夫に努める。	・本来、保護者がきちんとすべき事なので、申し訳ない気持ちがある。 ・早寝、早起き、朝ごはんの推進は素晴らしい。これからも継続してほしい。 ・食育等、家庭での役割も学校が担わなくてはならなくなってきている。 (関係者評価：3. 5)
健康の増進と体力の向上					

(4)安全・安心な教育環境づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
登下校の安全確保の取組の充実	・地域の見守り隊の協力を得て、登下校時の安全、校門の施錠システム、安全管理員を有効に使って、校内への不審者の侵入を防ぐ。 ・情報モラルや情報安全に関する指導体制を組み、携帯電話の持ち込みを禁止し、家庭での安全な使用について保護者の理解と協力を求める。 ・関係機関の協力を得て、校内防犯訓練を実施し、危機管理意識の向上を図る。	・毎月1回の安全点検で校内の施設設備の安全について気を付けている。 ・学期に1回の防災訓練・防犯訓練を実施して、いざというときに備えている。 ・無駄に開いている門が無いように、すべて施錠した。 ・地域の見守りについて、知らない保護者が多い。 ・多くの児童が携帯電話を持っているが、無防備である。	3. 0	・児童が自分の身は自分で守ることができるような、指導を積み上げていく。 ・「1. 1 7は忘れない」地域防災訓練に、育友会と協力して、役に立つ訓練にする。 ・携帯電話や PC 等における、児童への情報モラルの学習を教育課程に組み込む。	・地域や保護者には、地域の見守り隊のことを知らない者もいる。地域とのコミュニケーションがもっと必要である。 ・地域とのコミュニケーションづくりとして、スポーツ2 1や地域の行事等に参加することも大事である。 ・1. 1 7を忘れないなどの防災、防火訓練の定着をしていく必要がある。 (関係者評価：3. 0)
情報モラルや情報安全等に関する指導の充実					
校内の防災・防犯体制の整備					

(5)保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
特色ある教育活動の推進	・学校だより、校門外掲示板、ホームページなどで、常に本校の教育活動についての情報発信をする。 ・オープンスクール等の学校行事を社協会長を通して地域へ知らせ、来校してもらう。 ・地域行事への職員の積極的な参加を促す。 ・1人1人の教職員が、絶えず自己研鑽に励むことができるように校長として支援する。 ・学校関係者評価委員を、評議員3名＋保護者代表2名（昨年1）とした。	・ガーデニング、野鳥モデル校、壁面緑化などの環境教育、土俵を使つての相撲大会など、他校と比較して特色はあるのだが、保護者が気づいていない。 ・入学式、卒業式、体育大会などには多くの地域の方が来られるが、オープンスクールにはほとんど来られない。 ・懇談会への参加が非常に少ない。 ・学校評価の保護者アンケートの回収率が7 8 %と大幅に伸び（昨年度6 1 %）、教育活動への関心が高まった。	3. 0	・地域行事への職員の積極的な参加を呼びかけ、職員がまず、地域を知る。 ・オープンスクール開催について、もっと宣伝する。 ・個々の教員の研修会への参加体制を組み、研修の機会を保障する。 ・教育課程に、地域学習を取り入れ、地域に誇りを持たせ、自尊心を育てる。	・オープンスクールについて、よく分からない。 ・学校は独自性を発揮している。これからももっと地域の学習を取り入れ、「地域に誇りを持たせ、自尊心を育てる」地域教育に期待している。 (関係者評価：3. 5)
開かれた学校づくりの推進					
教職員の自己研鑽					

(6)教育目標

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	・年度初めに、職員会議で教育目標について説明し、保護者や地域へも学校だよりで知らせる。 ・若い経験の浅い教職員への指導の充実を図る。 ・学校行事毎に保護者アンケートを取り、目標の具現化が図れているか検証する。 ・加配教員の配置を工夫し、児童の学力向上、生徒指導に生かす。	・多忙なことを言い訳に、先を見通しての計画的な指導が十分ではない。 ・担任だけでなく、全教職員で取り組んでいく必要があるのに、教職員の意識が育っていない。	3. 0	・教育目標達成のために、PDCA サイクルに則つて、計画的に継続して指導を行っていく。 ・学習時間以外の場での指導も含め、1人1人の教職員が教育目標を具現化し、日々の指導の基盤におくよう、心がける。	・P D C Aサイクルを確実にしたアクションに期待している。 ・経験の浅い教職員のスキルアップはこれからも必要である。 (関係者評価：3. 0)
教育目標の具現化と指導の充実					

(7) 研究テーマ

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	・研究内容を充実させるため、研究組織を低・中・高学年部会から１～３年の低学年部会、４～６年の高学年部会の２つに分け、それぞれの部会に経験の豊かな教諭を１人ずつ配置した。 ・昨年度の成果と課題を受けて、引き続き研究を深めるために、甲南女子大学の原田教授に指導を願う。 ・単元学習を通しての研究が、児童の学力向上に効果を上げられるよう、また、教師の指導力向上を図ることができるように、継続を大事にする。	・経験の浅い教職員が多く、毎年異動の激しい中での積み上げは難しい。 ・今年度は、教科を国語だけに限定せず、全教科を対象に「伝え合う力」の育成をテーマにしたが、結局、研究授業は国語ばかりであった。 ・自習体制等のこともあり、先進校の研究会への参加が少ない。	2.8	・学年毎の力の積み上げができるように、これからも共通理解を深めていく。 ・教師１人１人が全教科、道徳・特別活動等においても、「伝え合う力」を意識して、指導にあたる。 ・先進校の研究会への参加ができるように、体制を整えていく。	・「伝え合う力」という研究テーマは、これからの教育にとって大事なテーマである。このテーマのもと努力して行ってほしい。（関係者評価：３.０）
研究テーマの具現化と指導の充実					

※ その他の評価項目 （Ａ：優れている Ｂ：適切である Ｃ：おおむね適切である Ｄ：要改善）

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B